

ふじ中通信

【第7号】

令和8年2月9日発行 文責 校長 小野

富士中学校ホームページ QR コード→



佐賀市立小中一貫校富士校

学校教育目標

地域を担う夢に向かって伸びゆく
富士っ子の育成

生徒会テーマ

愉快適悦

～当たり前を当たり前にし、
全員が楽しく誇らしく過ごせる学校～

富士中で今、重点的に取り組んでいること

3学期始業式 令和8年の力点

生徒の皆さんに頑張ってほしいこと
卒業後の社会生活でたくましく生き抜く力をつけてほしい

- 1 体力をつける
- 2 あいさつができる
- 3 主体性を身に付ける

生徒会（活動申請書・提案書）

記入日：令和（8）年（1）月（26）日

以下の内容で（活動を実施・提案）いたしますので、許可をお願いいたします。

主催委員会：本部・総務

責任者名：-

(活動・提案)名：(仮) HAPPY! place !!

(活動・提案)の目的：全校の色々な人と話したり、遊んだりして仲を深めなため。
今、昼休みで遊べるもののが限られているしこれを機に富士中学校に来たい！と思ってもらえるとと思うから。

具体的活動・提案内容：(誰がどうするのかをわかりやすく書く)
昼休みやバスの待ち時間などにホールで全校の色々な人が遊べるように。
カードゲームなどを設置する。

4月まで

期日：令和（8）年（2）月（中旬）日（ ）曜日 から 始める。

活動時間：（ ）時（ ）分～（ ）時（ ）分
—— 昼休み、放課後活動場所：ホール（メイン）、多目的室とPC室（サブ）
—— ホールが暑かったり、寒かったりして要望がある場合。使用する道具など：トランポ、VNO、
カーペット や机その他：ルールは、貸し出しあなたがホールだけで遊び、色々な遊びを使おう！やがる
(独立しない)

許可申請：責任者で、担当の先生方の許可をいただいてから、実施する。

生徒指導

①委員会担当の先生	②生徒会担当の先生	③校長先生
_____	_____	_____

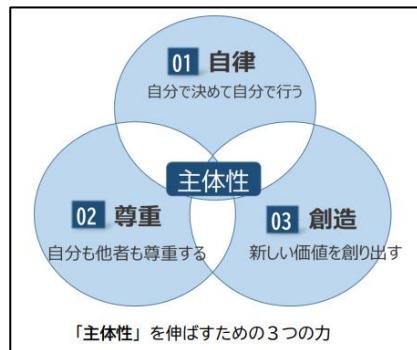
(・▽・)イイ!! 小中連携 小学5・6年生 中学部へ登校

富士校では、小学5年生と6年生が年間4回～6回、中学部に登校して1日を過ごすといった取り組みを行っています。授業は、中学校職員の乗り入れ授業、小学生と中学生の合同授業、平和集会や人権集会など様々です。2月5日は6年生が最後の中学部登校となり、その日は、令和8年度生徒会活動について審議する生徒総会が開催されました。6年生は1月26日も中学部に登校してきており、中学3年生が助っ人として参加し、議案書の学級討議を行いました。

2月5日の生徒総会では、小学6年生全員、質問をする場面がありました。会場にしっかりと聞こえる声で、堂々と質問をする姿がとても素晴らしいです。2月13日には、小学5年生と中学1年生の椎茸コ

3学期は左記のことを重点的に取り組んでいます。1ヶ月が経過しましたが、体育の時間ではハードトレーニングにも取り組んでおり、粘り強く取り組む生徒の姿がとても素晴らしい感じています。あいさつについては、まず、相手に聞こえる声大きさや目を合わせたり、会釈したりする動作など、今の自分にできる表現をレベルアップさせるよう一人一人が意識して取り組んでいます。主体性を身に付けることについては、佐賀市学校教育ビジョンで示されている「主体性」を伸ばすことをめざし実践しています。例えば、生徒会から以下の提案書が提出されました。実現させるためには、環境を整えたり、ルールを周知したり、その他にも考えること、やるべきことがあります。職員は子どもたちの伴走支援を行っています。

他にも、来年度の体育大会に向けて、中学2年が計画に取りかかっています。例年どおりではなく、体育大会の目的やどんな体育大会にしたいのかを生徒が考えながら進めています。また、体育大会は中学部と小学部との合同体育大会ですので、小学5年生と中学2年生が体育大会に向けて、合同で話し合う授業も実施しています。



佐賀市学校教育ビジョンより

(佐賀市ホームページに掲載されています)

マ打ち体験が予定されています。毎年、収穫した椎茸は、給食の材料になっています。このように富士校では、育てて食べるといった食育活動も小中で連携して取り組んでいます。



(・∀・)イネ!! 大成功！ 每年恒例百人一首カルタ会（2月6日）

日本の伝統文化の和歌や和楽器（和太鼓・箏）に親しむとともに、競技を通して学級・チームでの団結力を高めたり、協調性を養ったりすることを目的に実施されました。



(・∀・)イネ!! 第71回青少年読書感想文コンクール 特選

「フレデリック～ちょっとかわったのねずみのはなし」 作：レオ・レオニ 訳：谷川俊太郎
色褪せない絵本の魅力 富士中学校 2年 [REDACTED] (一部抜粋)

自分を満たしてくれるのは、姿かたちのある「物」だけではない。形にならない、触れることのできない「もの」も、自分の心を満たしてくれる。私は幼い頃から本を読む事が大好きだった。幼稚園にいたころ、毎日朝に本を読む時間が設けられていたかもしれない。小学校、中学校と進学していくと同時に、絵本からだんだん小説ばかり読むようになっていった。1学期の終わりごろ、私は友達と図書室に本を借りに行った。そのとき、ある1冊の本を見つけた。それは「君を守ろうとする猫の話」それを読み進めていくと、様々な本の名前が出てきた。それが私の「フレデリック～ちょっとかわったのねずみのはなし」との出会いである。牧場に沿って古い石垣がつまれている。5匹の野ねずみたちはそこで暮らしていた。冬も間近に迫り、野ねずみたちは小麦と藁を集め始めた。それなのにフレデリックは、ほかの仲間たちはせっせと働く間、太陽の光、景色の色、話の話題を集めているという。フレデリックは言い訳ばかりで怠け者？この本で特に印象に残った場面は、フレデリックが仲間たちに自分が集めたものを分けてあげるところだ。特にことばを分けたところが印象的だった。ことばは詩にして仲間たちに分けたのだが、フレデリックが話し終わると、詩人のようだと褒めている場面があった。その時の挿絵のかわいらしい笑顔のねずみたちを眺めていると、読んでいる方まで心がぱあっと明るくなった。少し前まで、暗くて悲しい雰囲気だったのだが、一気に明るい雰囲気に変わっていたのだ。そこで私は、自分を埋めてくれるものは姿かたちのあるものだけではなく、目に見えないものも、自分の心を埋めてくれると気づいた。空いたお腹は満たされないけど、ぽっかりと心に空いた穴は満たしてくれる。それが詩、音楽、本などの「もの」なのだと思うことができた。

私はこの絵本の魅力は、特に、心の豊かさの大切さ、個性と多様性の尊重を感じさせてくれるところだ。この本を読んでから変化したことは「周りの人の個性や才能を認めることができるようになつた」、「絵本に対する見方」だ。以前はなぜ真面目にやらないのかとイライラしていたが、今はその役に立たなそうなことも素晴らしいものに化けるのではないかとワクワクするようになった。絵本に対して以前は「絵本は幼い子供向けで純粋で素直過ぎて面白くない」と考えていたが、その真っすぐさこそが、日々成長していく私たちに足りないものだと思うようになった。幼いころ何気なく読んだ絵本は、必ず自分を大きく変えてくれている。絵本のシンプルな言葉やストーリーは、私たちの心に響くものがある。自分の中の世界も広がる。この時に感じる胸の高鳴りを忘れず、大人になってもう一度読み返したいと思う。その時はこの話をどう感じるのか、今から楽しみだ。